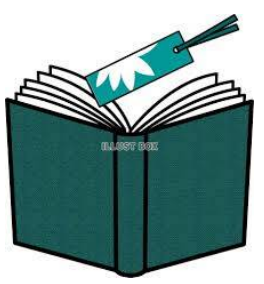
読書のすゝめHP用

その17
H27 10／6



図書委員・交流授業ー矢田部小学校へ

9月24日（木）本校図書委員6名が神栖市立矢田部小学校で図書を紹介するＰＯＰ作りをしてきました。

３・４・６年生を対象に、教科書のＰＯＰ作りを通して読書の楽しさを伝えることができるように、夏休みからＰＯＰ教材の準備をすすめ、期末考査後は朝・放課後に何度もシュミレーションをおこなってきました。

当日は小学生の反応を確かめながら笑顔で説明をすることができました。また、小学生も積極的に活動していました。休み時間には一緒に運動場で体を動かしたり、給食をともにすることですっかりうちとけ、本校生徒が帰る時には校門からいつまでも手をふってくれました。各学年が歌をプレゼントしてくれましたが、明るく純粋な小学生が一生懸命大きな声で歌ってくれる姿に胸がいっぱいになりました。

小学校と高校とが交流する機会はなかなかありませんが、今回の企画は大変有意義なものになりました。

９月２７日（日）茨城新聞
９月２６日（土）毎日新聞
大きく取り上げられました。

６年生「カレーライス」
心情を言葉にこめて班ごとに掲示物作成。

３年生「もうすぐ雨に」
フラッピングパーツ

４年生「白いぼうし」
帯つくり

６年生
班ごとに発表

子どもたちの目線で。

高校生にはひさしぶりの「給食」。
わきあいあいと！

「こんにちは！」「はじめまして！」　少し緊張気味の生徒たち

3年生「もうすぐ雨に」（朽木祥）

かえる・からす・つばめ・にわとり。そして猫のトラノスケ。「ぼく」が出会った小さな動物たちが鈴の音とともに雨が降ることを教えてくれた。

※登場する動物たちの形を切り抜き、鈴をつけた動きのあるフラッピングパーツの作成をしました。

4年生「白いぼうし」（あまんきみこ）

タクシー運転手の松井さんが拾った白いぼうしの中には幼稚園生がつかまえたもんしろちょうが入っていた。ちょうの代わりに夏みかんをいれておくと、タクシーの中にはおかっぱ頭の女の子が・・・。そして野原にはたくさんのちょう。「よかったね」「よかったよ」ちいさな声が聞こえました。

※本の帯づくり。帯は白いぼうしをかたどり、印象に残った場面やことばを絵を添えてつくりました。

6年生「カレーライス」（重松清）

約束を破ってゲームをしていた「ぼく」に、お父さんが怒っていきなりゲーム機のコードを抜いてしまう。悪いことをしたのだけれど、なかなか「ごめんなさい」が言えない。そして、お父さんの具合が悪くなったときに、「ぼくがカレーライスを作るよ！」と。

※カレーライスのなべにはいろいろな材料が入っているように、いろいろな気持ちを材料の形に抜いた紙に書き込み、班ごとのカレーライスをつくりました。

☆斉藤さん（２年）

夏休みからずっと「上手くいかなかったらどうしよう。」「興味を持ってくれないかもしれない」という不安を抱いていた私に、矢田部小学校の子どもたちは無邪気でやさしく接してくれました。休み時間には子どもたちの方から遊びに誘ってくれたり、もちろん、授業中も積極的に発言するなど、意欲的に取り組んでくれました。またこのような機会があれば、ぜひチャレンジしたいと思います。

☆長谷さん（２年）

たくさんの原稿の訂正と練習を重ねてきた成果が表れたのか、トラブルなく無事に終えることができて安心しました。私は3年生と活動をしましたが、同じ学年の弟がいるので親近感をもって接することができました。貴重な経験をすることができました。

☆和田さん（２年）

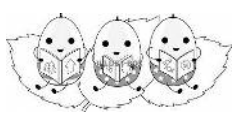
わかりやすく教えることの難しさを感じました、言葉遣いや話す速度の調節など大変なこともありましたが、楽しく充実した時間を過ごすことができました。

☆土屋さん（１年）

最初の3年生の授業では子どもたちにどのように接してよいかわからず、かえって子どもたちの方から話しかけられる状態でした。４年生では、一学年違うだけでも使用する語彙が増えることに気づき、成長するということに新鮮な驚きを覚えました。

☆鈴木さん（１年）

算数ボランティアを経験しているので、小学生に教えることに緊張はありませんでした。今回3年生と6年生の授業のサポートをしましたが、3年違うだけなのに、反応や行動、語彙に大きな差が見られびっくりしました。

☆斉藤さん（１年）

自分が小学生だったころの記憶や感情がよみがえって新鮮な気持ちで子どもたちと活動することができました。３年生は人見知りをする子が多かったけれど、徐々に心を開いてくれました。フラッピングパーツは個人で作るものだったけれど、班の友だちとの会話の中で共感し、アドバイスをし合うなどコミニュケーションを取りながら制作していたので、グループ活動としても成立していたと思います。ある６年生に「主人公の気持ちを想像で書いてもいいですか。」と質問されましたが、この発言が特に印象に残りました。感想や印象に残ったフレーズを書き出すことしか言わなかったのに、想像したことを書きたい、自分しか考えられないことを表現しようとする気持ちを、これからも忘れないでほしいと思いました。